

自然エネルギー大学リーグ 参画への趣意書

2022年
学校法人和洋学園

学長からのメッセージ

気候変動という社会基盤に関わる問題を前にすると、法や政治、経済などが複雑に関与し、一挙に問題を解決する「希望」を簡単には見通せないものです。しかし気候変動の当事者である私たちがそこで考えることを停止すると、次の社会への展望は絶たれます。

気候変動という大きなテーマを前に当事者であるわれわれ、とりわけ大学は「何を考え、何をなすのか」を学生たちに示すことが求められています。和洋女子大学は自然エネルギー大学リーグに参加し、大学活動による二酸化炭素排出を2030年までにゼロにすることを目指しています。また、学生自身がこの難問に大学とともに挑んで学ぶことを期待しています。

環境問題を含めた現在の社会問題は、人間が生きてきた歴史の課程で蓄積されたものであり、その解決はわたしたちが行う以外に道はありません。私たちは学生を始め未来を生きる人々に唯一無二の地球と地球の環境を守り、残すことが責務です。大学で使用するエネルギーを再生可能な自然エネルギーとすることは、その問題解決の第一歩だと考えています。未来を担う若者とともに大学の社会的責任を担い、地球環境維持の一翼を担いたいと考えます。

和洋女子大学 学長 岸田宏司

教育機関としての役割

- 教育機関として教育・研究と共に社会貢献が求められます。持続可能な社会づくりは人類共通の目標であり、これに貢献することは大学共通の使命といえます
- その一つとして、人類生存を脅かす「気候変動問題」を解決する鍵となる脱炭素社会をめざす必要があります
- 擬態的には地域に存在する自然エネルギーを活用することで「地域分散型のエネルギー供給体系」に社会を変えることができます
- 化石燃料や原子力ではなく、自然エネルギーの積極的な利用は世界の動きです。世界の電力供給に占める自然エネルギーの割合は2019年には26.4%、日本は18.5%。欧州諸国に比べ遅れをとっています
- 日本は自然エネルギー資源に恵まれており、脱炭素化に向けた再生可能エネルギー100%のモデルを世界に示すことが可能です

SDGsの意義

- 国連の持続可能な開発目標(SDGs)の達成には、社会の各主体が積極的に活動する必要があり、大学・中学・高校もその一員として活動することが求められています。この問題に教育機関が取り組むことには2つの意義があります
- 未来の人を育てる教育機関自らが行動することで、企業・自治体・公的組織・NGOなどに大きなインパクトを与えることができます。世界は持続可能な社会づくりに舵を切り始めています。こうした活動を教育機関が生徒と学生とともに牽引することができます
- 教育機関においては、再エネ100%社会に変える思考力と創造力と実行力を備えた人材の育成に応えることが責務です。そのためには、机上の学問だけでなく、PBLのテーマとして教育機関である和洋学園が自然エネルギー100%を実現し、模範を示して、生徒・学生の学びを促すことで、より実践的で、生きた教育が可能となります

自然エネルギー大学リーグの役割

- 第一段階として、電力に関して自然エネルギー100%のRE100大学を目標とします。ここで、REとはRenewable Electricityです。まず、宣言をして意識を高め無理のない形で一步一步進めます
- 大学間の協力が大きな助けとなります。その先は、熱や移動手段も含め、大学の使う全エネルギーの自然エネルギー転換を目指します
- 次の参加条件に該当する大学で、共に実行するべくリーグを結成。この提案を海外の大学に発信し、国際的なネットワークも構築します
 1. 大学(あるいはキャンパス)の使用電力量を目標に、**2030年から2040年を目途に自ら定める年限までに、自然エネルギー電力を生産もしくは調達することを大学として決定し、公表する**
 2. 大学としてその具体的な計画を策定し、実行する

和洋での取り組み方向

付属・併設を超えた教育ネットワークの構築
WWU・Colleges-Network

和洋自然エネルギー活動と教育目標

教育方針

- 持続可能な社会に変える「思考力と創造力と実行力」を備えた人材の育成に応える
- 机上の学問意義に留まらず、PBLのテーマとして教育機関である和洋学園が自然エネルギー100%を実現し、模範を示す
- 実践的模範を示すことで、生徒・学生がそれぞれの学習・学修段階に応じて学ぶ、生きた教育環境を整備する
- SDGs教育で学園の先端を走る和洋女子中学校高等学校と自然エネルギー大学を目指す和洋女子大学が実践的模範を示し、これからの教育に活用する。和洋女子中学校高等学校も時機を見て参加していく

和洋自然エネルギー活動と教育目標

WWU・Colleges-Network

- WWU・Colleges-Network¹⁾での教育カリキュラム構想
- 今までの暮らしを見つめなおし、地球環境に負荷のある生活様式を変えるための方法をPBL形式で学ぶプログラムの開発
- 中学、高校、大学のそれぞれの教育課程で独自のプログラムを構築し、さらに3者が同時進行でコラボレーションすることをめざす
- この教育プログラムでは、九段校のグローバル教育、大学の国際学部 of グローバルラボとの連携をめざす
- 自然科学と生活科学の教養をもとに問題を設定し、それを解決するための課題を見つけ、具体的に行動する仕組みを教育課程に盛り込む

*1) WWU・Colleges-Networkは和洋学園が要する中学、高校、大学が垣根を超えて女子教育の質の向上を目指すための教育資源ネットワークである

自然エネルギー100%に向けた実践計画

1. 持続可能社会の実現と気候変動への対応宣言

- 今年度中に和洋女子大学、和洋九段女子中学校高等学校、和洋国府台女子中学校高等学校と共同で宣言を採択。
- WWU・Colleges-Network:RE100宣言

2. エネルギー消費アセスメントの実施

- WWU・Colleges-Networkには市川市国府台、千代田区九段下、佐倉市ユーカリが丘の3キャンパスにおけるエネルギー消費アセスメントを行い、その白書を中高大で作成し公表
- CO₂排出量の測定と削減目標の明示。削減計画の作成
- 取組によるCO₂削減効果と経済効果の試算

自然エネルギー100%に向けた実践計画

3. 自然エネルギー100%実現の道筋

- LED照明の導入、再生可能エネルギーで創られた電気、カーボンニュートラルなガスへの転換とCO₂削減量の試算
- 自然エネルギー100%達成までの過程を公表
- 創電の可能性を検討する(教育とも連動)

和洋学園CO₂排出量

和洋学園CO₂排出量

2020年度

1	学校名	CO ₂ 排出量(t)	CO ₂ 排出量シェア	エネルギー使用量(kl)
2	和洋女子大学	3,245	72.1	1,606
3	和洋国府台女子高等学校	422	9.4	230
4	和洋九段女子高等学校	192	4.3	105
5	和洋国府台女子中学校	236	5.2	129
6	和洋九段女子中学校	310	6.9	170
7	佐倉セミナーハウス	93	2.1	45
8	合計	4,498	100.0	2,285

持続可能な社会の模範となり、 未来を拓く実践教育の展開

21世紀に生まれたこどもたちの生活を守る